

Topics ■トピックス [学内情報]

◎UHA味覚糖の人気グミ「コロロ」とのコラボ商品

関大生がパッケージを手掛けた「関大コロロ」を限定販売



▲関西大学×UHA味覚糖「関大コロロ」

関西大学はUHA味覚糖株式会社と連携し、関大生がデザインした「関大コロロ」を発売した。7月25日より各キャンパス内の売店で限定販売が開始され、今後はイベント等での配布も予定されている。

「関大コロロ」は、丸く可愛い形と果実のような食感で多くのファンを持つUHA味覚糖の人気商品「コロロ」とのコラボ商品。近年、グミは若者を中心に人気があり、「グミニケーション」という言葉も生まれるほど、大学生の間ではコミュニケーションツールの一つになっている。この状況を踏まえ、今回のコラボでは「さらに活発な学生間のコミュニケーションを」と、本学のスクールカラーである「紫紺」と同系色の「コロロ(巨峰味)」をマッチングさせ、マス・コミュニケーション学研究部の2人がパッケージをデザインした。

その一人、多田菜乃さん(文学部3年次生)は、今年20周年を迎える体育会「カイザーズ(KAISERS)」のロゴマークとともに、体育会の各競技中の選手を描いたイラストを「輪になるイメージ」で円形に配置したデザインを考案。「20周年を祝福する明るい和やかな雰囲気になりました。コロロはよく食べるので、自分のデザインしたコロロが登場するのはうれしい」と喜びを語った。



●多田菜乃さん

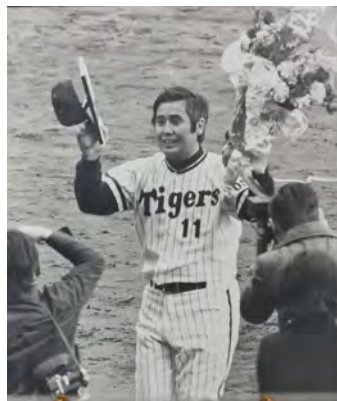


●向山温登さん

もう一人の向山温登さん(経済学部3年次生)は、幾何学模様をベースに2025年4月開設予定のビジネスデータサイエンス学部と吹田みらいキャンパスをイメージしたデザインを考案。「近未来的なイメージを取り入れ、パステルカラーの明るい印象とスクールカラーを基調にデザインしました。デザインが採用されたのは初めてでとてもうれしい」と語った。

◎名投手ゆかりの品約25点をご遺族より関西大学博物館へ寄贈

阪神タイガース村山実氏のユニホームやキャップ等を収蔵



▲1973年に行われた引退試合の写真パネル

関西大学体育会野球部OBで、阪神タイガースの投手・監督として活躍した村山実氏(1936～1998年)のゆかりの品約25点が、遺族から関西大学に寄贈された。村山氏は1959年商学部卒。2年次生の時に全日本大学野球選手権大会で優勝し、関西六大学リーグの最優秀選手に2回選ばれるなど、大学野球部で活躍した後、大阪タイガース(現・阪神タイガース)に入団。「ザトベック投法」と称される全力投球で人気を得るとともに、エースとして1962年にタイガースをリーグ優勝に導き、最高殊勲選手に選ばれた。後に監督も務めている。巨人・長嶋茂雄選手とのライバル対決は全国の野球ファンの注目を集めた。この度寄贈されたのは、タイガース時代のユニホームやキャップ、沢村賞受賞記念の盾、防御率セ・リーグ新記録賞の記念盾、



▲全日本大学野球選手権大会優勝記念のパネル

村山実氏のご遺族から寄贈されたユニホーム、盾、写真パネルなど



ベストナインの表彰状など約25点。その中には、関西大学時代の1956年に全日本大学選手権で優勝した際の記念写真パネルも含まれている。

7月25日の贈呈時には村山氏のご遺族と芝井敬司理事長が会談し、ご遺族は「故人の野球界活躍の原点となり、縁の深い母校にゆかりの品を収蔵してもらえれば」と、本学に思い出の品を寄贈するに至った経緯と想いを語られた。

寄贈品は関西大学博物館で保管し、将来的には関西大学とプロ野球をテーマにした企画展示なども検討している。

JOINT PROGRAM ■社会貢献・連携事業／地域連携

◎宮内庁宮内公文書館・堺市博物館・関西大学共催

企画展「仁徳天皇陵と近代の堺」を開催



大阪府堺市にある仁徳天皇陵(写真提供:堺市)

関西大学は、宮内庁宮内公文書館、堺市博物館と企画展「仁徳天皇陵と近代の堺」を9月14日(土)から堺市博物館で共催している。10月13日(日)には堺キャンパスで仁徳天皇陵の保全などをテーマにシンポジウムが開かれるほか、9月22日(日)と10月6日(日)には講演会も開催。



本企画展は、近代における陵墓と堺の人々とのつながりを、宮内公文書館が所蔵する公文書や地域に残されてきた資料、関西大学博物館が所蔵する資料からたどるもの。関西での開催及び宮内公文書館が地方自治体と開いている展示会に大学が共催の形で加わるのは初めてとなる。

関西大学が堺市との地域連携協定事業として進めてきた、宮内公文書館所蔵の特定歴史公文書等の調査研究や、三次元レーザーを使用して実施した仁徳天皇陵における壕水調査の成果も合わせて広く伝える。こうした調査研究の結果がまとまり、三者共催による企画展が実現した。



明治30年代から大正時代の始めにかけて、仁徳天皇陵等に掲示されていた「英文制札」。陵墓への立ち入りや魚や鳥の捕獲の禁止について記している(関西大学博物館蔵)

◎体験型イベント「キッズミュージアム2024」を開催

体験学習を通じ、楽しみながら歴史や考古学に触れる



8月1日・2日、千里山キャンパスの関西大学博物館にて、夏休み恒例の「キッズミュージアム2024」が開催された。

本イベントは、地域の小学生を対象とした体験型イベント。歴史や考古学を体験することができ、夏休みの自由研究としても子どもたちに人気がある。

1日目のプログラムは「縄文タイルをつくろう!」、「扇子に絵を描こう!」。縄文タイル作りでは、学芸員から縄文時代についての説明を受けた後、粘土に縄目を付ける道具の原形を使って模様を付けたり、貝殻や竹管を利用して押型を刻んだり、



縄文タイルをつくろう!

それぞれの縄文タイルを完成させた。その後は博物館の展示室で、学芸員の解説を聞きながら実物の考古学資料を見学した。また、扇子に絵を描く体験では、学芸員から扇子の構造や歴史などについて話を聞いた後、15cm



扇子に絵を描こう!

ほどの真っ白な扇面に思い思いの絵を下書きし、顔料で色付けをしてオリジナルの扇子を完成させた。

続く2日目のプログラムは「拓本をとろう!」、「埴輪をつくろう!」。拓本作りでは、専用の道具を使って瓦の模様を紙に写し取るなど、実際の考古学者のような体験に目を輝かせながら挑戦。埴輪作りでは、本物の埴輪を参考にしながら、自分だけのオリジナルの埴輪作りに没頭し、一人ひとりの思いが詰まったユニークな作品を誕生させた。

埴輪をつくろう!



※写真は本人と保護者から、撮影と掲載の許可を得ています。